

コロキウム2016提言

2050年の口腔ヘルスケア

深井保健科学研究所

第15回コロキウム「2050年のヘルスケア」（2016年8月20日，東京，日本）

グローバルな高齢社会の進展と健康に関するニーズが変化していく中で，人々が健康と幸福を享受できる社会の実現のために，持続可能な社会保障システムを構築しなければならない。2050年には，ベビーブーマーが100歳を迎え，世界人口が恒常化していく。第15回コロキウムでは，これまでの社会変化を振り返り，「2050年のヘルスケア・口腔ヘルスケア」予測と，それに対応するための研究展開および歯科医学教育の課題について議論を行った。口腔ヘルスケアが，健康社会実現に向かってその役割を果たしていくためには，口腔疾患の治療中心の歯科医療から，多職種連携に基づく健康創造型の歯科医療・口腔保健へと転換することが必要である。このような観点から，以下の提言を行う。

1. ハイリスク者に対する効果的なヘルスケアに関する研究の蓄積を図ることと共に，健康や保健行動を左右する健康の社会的決定要因を考慮した健康格差の是正の取り組みを推進する。
2. 口腔と全身の健康との関連を踏まえ，多職種連携と健康増進に基づく歯科医学教育体系の再編とその実践を促進する。
3. 歯・口腔の健康度評価と健康保持を図るためのヘルスケア技術に関する研究の蓄積を促進し，その成果を健康にかかわる多職種が共有する。
4. 情報科学と認知行動科学に基づく健康教育手法を基盤とした保健指導のアプローチに加え，行動経済学と社会疫学に基づく保健行動が向上する環境づくりのための研究を促進することによって，エビデンスと口腔保健ニーズに即したより効果的なセルフケアの推進を図る。
5. 歯科医療の健康増進効果を社会経済的な視点から検証し，持続可能な国民皆保険制度のための疾病予防を組み込んだ新たなシステムを歯科口腔保健分野から提案するための研究を推進する。また，地域の歯科医療機関の機能分化に関する研究と実践の促進を図る。

2050年のヘルスケア

深井保健科学研究所 第15回コロキウム, 2016年8月20日, 東京

1. 疾病構造および人口構造の変化は, 保健医療の主要技術と体系を転換させる. 低・中・高所得国の健康課題が共通してくる.
2. 全身の健康状態・リスクは, 個人医療情報技術 (ICT) と人工知能 (AI) の発達によって, 誰でもいつでも把握しやすくなる.
3. 疾病・機能低下と加齢との関係がより整理され, 非感染性疾患 (NCDs) は, 環境性, 行動性, 老化起因性, 遺伝起因性等に再分類される. 予防医療から予知医療への転換が進んでいく.
4. 持続可能な社会保障制度の観点から, 健康政策が予防とセルフケアの推進に一層シフトしていく.
5. ハイリスクグループに対する保健医療技術と環境づくりが発展し, その手法がより高度化する.
6. 健康に関する多領域の職種間連携と評価基準の共有化が進化していく.
7. 口腔疾患の疾病構造の変化 (う蝕・歯周病・歯の喪失の減少) は, 歯科保健医療の主要な技術を転換させ, 口腔保健の健康増進における役割が一層高まる.

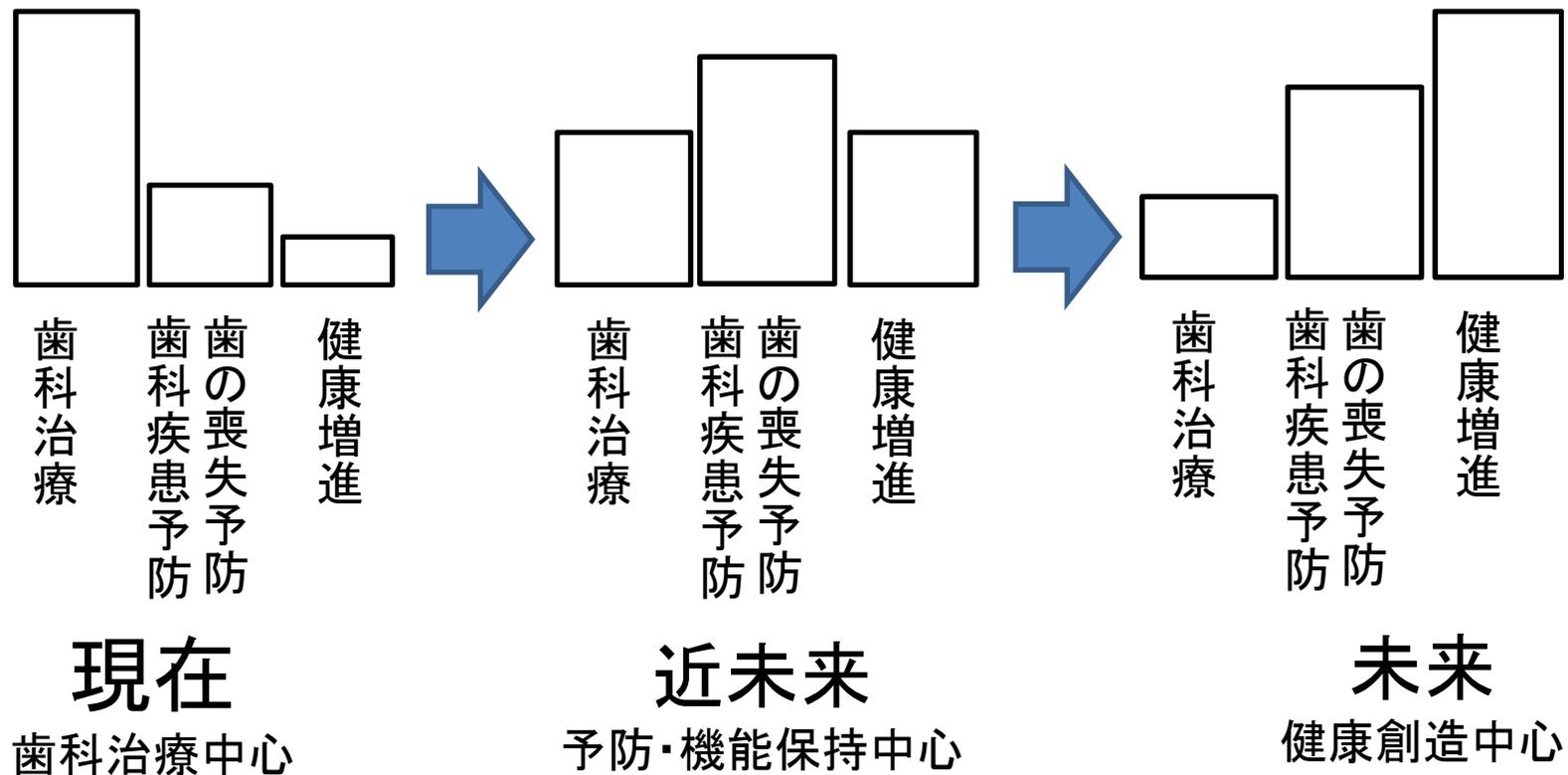
2050年の口腔ヘルスケア

深井保健科学研究所 第15回コロキウム, 2016年8月20日, 東京

1. 歯科疾患・歯の喪失は, common diseaseでなく, ハイリスク者の抱える疾患となる.
2. 歯科疾患の治療および欠損歯補綴治療中心の歯科医療機関のニーズは減少し, 健康な歯・口腔を維持することに歯科医療専門職の役割はシフトする.
3. 歯・口腔の健康を保持するための全身の健康のリスク評価が歯科保健医療に体系化され, 医科・栄養分野を始めとする多職種がその成果を共有するようになる.
4. 歯科医療・口腔保健の役割が, 歯科疾患の治療から, 咀嚼・摂食機能およびコミュニケーション機能をはじめとする口腔機能の保持改善へと広がり, 健康増進・well ageing分野の基本的な領域となる.
5. 情報技術の発達とエビデンスの蓄積が, 歯科保健指導を進化させ, セルフケアのウエイトが高まる.
6. 地域の歯科医療機関は, 予防・健康増進中心の医療機関と歯科疾患治療・口腔機能回復中心の医療機関の二つに機能分化していく. そして多くの歯科医療機関は, 予防・健康増進の役割を担うようになる.

歯科医療・口腔保健の未来

1. 人口構造・長寿化の観点から
2. 疾病構造の観点から
3. 技術進歩の観点から
4. 人々のデマンド・社会的ニーズの観点から





深井保健科学研究所 第15回コロキウム「2050年のヘルスケア」 2016年8月20日, 東京国際フォーラム